

平成27年度第1回東成区区政会議 子ども・教育部会 会議録

1 開催日時 平成27年6月17日（水） 19時から20時まで

2 開催場所 東成区役所 1階ふれ愛パンジー

3 出席者の氏名

【委員】

田中 英夫（子ども・教育部会議長）、濱田 麗史（子ども・教育部会副議長）、
石塚 克哉、五ヶ山 絹代、小林 智恵子、清水 栄二、杉原 博、西野 功、
平田 昌之、古山 治、増田 博、松井 克記

【東成区役所】

森本 万喜子（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、河合 宏成（総務課長）、
笹部 毅（区政推進担当課長）、中浦 進（まちづくり推進課長）、
西山 明子（児童・保健担当課長）

4 委員に意見を求めた事項

- （１）平成26年度東成区運営方針の振り返りについて
- （２）平成27年度東成区予算概要（子ども・教育部会）について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

○笹部課長 皆様よろしいでしょうか。定刻となりましたので、ただいまから東成区区政会議、子ども・教育部会を開催してまいりたいと思います。

私は進行を務めさせていただきます東成区役所区政推進担当課長の笹部と申します。座って進めさせていただきます。

それでは、早速議事に入ってまいりたいと思います。

まず、冒頭に、区長の森本より一言ご挨拶申し上げます。

○森本区長 皆様こんばんは。お忙しい中、本当にお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、平成27年度の第1回区政会議の子ども・教育部会にご出席を賜りまして、ありがとうございます。今回の部会につきましては、平成26年度の運営方針の振り返りと平成27年度の予算についてご報告、並びに先ほどの運営方針の評価についてご意見を承りたいと思います。

評価自体については、お手元にちょっと分厚いものがあると思うんですけども、それが本体なんですけども、ちょっとそれが細かいということで、今までの部会とか本会議におきまして、できるだけ皆さんがわかりやすい資料をとということをおっしゃっておられましたので、今日につきましては、資料というんですか、配布の中に入っておりますものに従いまして説明をさせていただきたいと思います。

それから、昨年度も区政会議は必須事項であります、今日お願いします運営方針の評価でございますとか、予算に関する意見でありますとか、そういうことはお伺いしないといけないんですけども、それに対しますこちらの、区役所側の説明が長いということで、こちらに時間をとられまして、なかなか委員の方々のご意見を承る時間が少ないんじゃないかということもご意見をいただきました。今年につきましては、皆様方の意見をお聞きしたいということで、1年間この部会で取り組んでいただくテーマを決めまして、委員の方々同士でご意見交換をしていただきまして、例えば来年度の施策でございますとか、予算に活かしていただくことができればということでお願いをしたいと思います。テーマをどうするかにつきましては、後半のときにまたお願いをしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、実は今、教育委員会のほうで保護者の方や区民の方たちが参画して、いろんなご意見を聞く会議を作りなさいという動きがあります。これは分権型教育ということで区役所に、私もこの春から教育次長として教育委員会の中で位置づけられてるんですけども、そういう会議を作りなさいということが、今、検討されております。ところが、うちは区政会議の、この部会がございますので、教育委員会が今検討されております会議はこの部会でいいのか、それから少し形を変えたものにしないといけないかというのは、まだ結論が出ておりませんので、もし、少しそういうことを考えなければいけないときには、またご相談をさせていただきますので、今日の部会については区政会議の部会ということでお願いしたいと思いますので、どうぞ遅い時間からお時間をとっていただきまして申し訳ございませんが、どうぞよろしく願いいたします。

○笹部課長　それでは、本日の開催状況でございますが、子ども・教育部会の委員15名中12名の委員の出席をみておりますので、有効に成立してる旨、ご報告申し上げます。

次に、本部会の公開ですが、区政会議に準じて公開するというようなことになっておりますので、その点ひとつご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

最後に、本会場にお越しの皆様申し上げます。携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードをお願いしたいと思います。また、会場内での通話や私語等のご遠慮いただきたいと思ひます。

それでは、まず、資料のご確認をさせていただきます。配付資料といたしましては、まず、資料1として配席図、資料2として子ども・教育部会の委員名簿、資料3としまして次第、資料の4としまして東成区区政運営の振り返り、資料の5といたしまして平成27年度東成区予算概要という形となっております。過不足があれば、お手を挙げていただければ結構かと思います。

それでは、議事に移ってまいるのでございますが、その前に、先ほど区長からの説明にもありましたように、今後の部会の進め方について一つご提案がございます。部会は区政会議の本会議と比較いたしますと、少人数で意見の交換のしやすい場でもありますし、議論を深めやすい場であるというように考えております。今年は、さまざまな形で委員の皆様のご承認を受けていく部会に加えまして、各部会で一つテーマを決めまして、検討会でありまうとか学習会、そういった形のこともやっていければどうかというようなことを考えております。そういった形での部会になりますので、当然、結論を早急に出すというようなことが目的ではありません。何分、東成区といたしましては初めての試みにもなりますので、手探りのような状態になろうかと思いますが、委員の皆様の活発な意見交換、ご提案をお願いしたいと思ひます。

次に、委員交代についてですが、昨年度第2回の区政会議以降、一部の委員の交代が生じておりますので、私のほうから新委員をご紹介します。委員の方はその場でご起立をお願いいたします。

東成地区保護司会からの推薦委員といたしまして、^{ふなづかずお}船津一男さんに代わりまして^{すぎはらひろし}杉原博委員です。

○杉原委員　　こんばんは、初めまして。このたび、船津前保護司会長の後ということで、今回初めてメンバーに参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

○笹部課長　　ありがとうございました。

それでは、以降の部会の運営につきまして、田中部会議長に進行をお願いいたします。

○田中議長　　皆さん、こんばんは。前年度に引き続きまして部会議長をさせていただきます田中と申します。部会終了までご協力をよろしくお願いいたします。それでは、座らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

平成27年度の第1回目の子ども・教育部会の議事に入ります。

本日の議題は、平成26年度東成区運営方針の振り返りと平成27年度予算概要についてです。できるだけ前向きなご意見をいただき、有意義な部会にしていきたいと思ひます。

本日の議題について区役所より説明を受けた後、委員の皆さんのご意見をお聞きしていきたいと思ひますので、その後、先ほど区役所から提案のあったテーマについても話し合

いたいと思います。短い時間で、できるだけ多くの委員の皆さんにご意見をお聞きしたい
と思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは初めに、区役所より26年度の振り返りと27年度の予算の説明を、できるだけ簡
潔にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○西山課長 皆さん、こんばんは。児童・保健担当課長の西山です。私のほうから、ま
ず、26年度東成区区政運営の振り返りについてご説明させていただきます。

配付資料ですね、先ほど資料の説明がありましたが、5枚ぐらいめくっていただきまし
て、右肩に四角囲みの資料4というものがございませうでしょうか。5枚めくっていただい
て右肩四角囲みの資料4で、表題が26年度東成区区政運営の振り返りとなっております。
下のほうに1ページとなっております。順番に説明をさせていただきます。

まず、経営課題4、子育てという部分です。子育て家庭が子どもを育てる上で、昨今、
例えば核家族化や地域のつながりの希薄化、つながりが薄くなっているということで、子
育て中の保護者を地域社会全体で支援していくということで、安心して子育てできる仕組
みを構築していく必要があると課題認識しております。そのために、また子育てに関して
さまざまな機会、あるいは情報提供の充実も重要であると考えております。また、仕事と
家庭の両立支援が図られるように、保育所の待機児童ゼロの状況を引き続き維持するとい
う必要があると考えております。

まず、4-1なんですけれども、子育て不安を軽減し、安心して子育てできる取組の充実
ということで、子育てネットワーク構築支援事業について取り組みを進めてまいりました。

業績目標としまして、「ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブ」の新規登録者数
350名以上ということで設定しております。このつながるクラブと申しますのは、以前に
もご説明させていただいたかと思いますが、子育て家庭と地域をつなぐための一つの仕組
みということで、クラブの登録をしていただきましたら、そのカードを主任児童委員さん
が子育て家庭に、郵送ではなく直接届けるということで、まず、子育て家庭と主任児童委
員さんのつながりができます。そのカードを使って地域の子育てサークルなどを便利に使
っていただくことで、子育て家庭と地域の皆様とのつながりが広がっていくという仕組み
です。これについて、取り組み実績としまして、目標以上の26年度は407名の方に登録を
していただいたところですよ。それだけじゃなくて、こういったイベントの開催と書いており
ますが、子育てを支援するような機会も提供をさせていただいて、多くの方に参加してい
ただいてるところでございます。

今後なんですけれども、やはり、こういった地域と子育て家庭をつなぐ機会を広げてい
くという意味で、よりこの仕組みを充実させることによって、多くの方にご参加いただい

たら、登録していただいたらと考えておりまして、すくすく・つながるクラブ、例えば地域の店舗、企業さんと連携をすることで、このカードをより便利に使っていただこうということも考えております。

続きまして、2ページ目めくっていただきまして、上が、なにわっ子すくすくスタート事業ということで、これは子育て支援の、我々やっています相談事業であるとか、あるいは情報をより皆さんに届きやすくするというので、今、情報誌を発行しております。26年度について、目標としては子育て世帯へのアンケートにおいて、地域の子育て情報が充実していると感じる人の割合が60%ということで、取り組みでアンケートをとりましたら、88.2%ということで、目標としては達成させていただいたかなと思っております。

子育て情報誌なんですけれども、これについても作成するに当たりまして、地域のボランティアさんや保護者の当事者の方にもご参画いただいて、皆さんのより便利なお意見をいただきながら、より便利な情報誌を作成していったところです。本日持って来ておりますけれども、こういった「ひがしなり子育て安心ブック」というものを作成しております。これは、例えば保護者の方にしてみれば、やはりこういったブックが大き過ぎると、なかなかバッグに入らないということで、これぐらいの大きさがいいであるとか、内容についてもこういった内容が盛り込まれてたらいいとか、そういったことをお聞きしながら作り上げてきたものです。今後もより充実をしていくためにも当事者の皆さん、あるいは地域のボランティアさんと協働しながら充実させていきたいと考えております。

3番目ですが、保育所待機児童の解消でございます。これについて、27年4月1日現在の待機児童ゼロというのを目標に掲げておりまして、今回、取り組み実績にありますように、各保育所の、保育園の皆様のご協力のもと、4月1日時点での待機児童ゼロということになっております。また、26年度は小規模保育「東中本みらい園」も開設しまして、定員19名中、広報・周知により19名入所していただきまして、これも待機児童の解消につながったと考えております。引き続き、皆さん、家庭と仕事と子育ての両立に向け、待機児童ゼロの状況を引き続き続けるように、保育所の皆様方のご協力も得ながら進めていきたいと考えております。

子育てについては以上です。

○中浦課長　続きまして、まちづくり推進課長の中浦でございます。私のほうから、教育関係につきましてご説明させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

経営課題の5ということで、3ページ目でございます「健全な生活習慣の形成や多様な体験ができる環境づくりのためには、家庭はもとより保育所や学校園、地域が連携して、子どもや学校を支える教育コミュニティを発展させる必要がある」ということで、2点取

り組みを行ってまいりました。

1点目が教育コミュニティの発展、学校と区役所の連携ということで、区役所の支援が、地域や地域と保護者の連携により学校支援によって子どもたちを育んでいく活動や仕組みづくりにプラスになっていると感じる人の割合ということで、60%以上ということで、これにつきましては、このはぐくみネットコーディネーターさんとの交流会ということで開催をいたしまして、大学の先生に来ていただきまして3回ほど実施させていただきました。実際には参加者、ちょっと少なかったんです。取り組み実績が100%というふうになってございますけれども、ちょっとその関係で参加者数が少なかったということで、ただ、参加された方々は非常に満足されたというような結果となっております。また、大学の先生も、来ていただきました講師の先生からも、少人数ではあったけれども非常に活発な意見交換ができて有意義だったというような評価もいただいております。1点目が以上でございます。

2点目ですが、特色ある学校づくりの支援ということで、区職員が協力した土曜授業等の実施回数11回ということで目標に掲げておりました。これに対しまして、私ども小学校長会、あるいは中学校長会とも連携をいたしまして、区長とともに小学校であれば毎月になりますけれども意見交換会を行ったりいたしまして、中学校も定期的に意見交換会を行ってまいりました。それが27回ということでございます。学校からの要請で、防犯・防災の授業を9小学校・中学校で、ちょっと中学校が抜けておりますけれども、開催させていただきまして、述べ16回、防犯・防災等の授業を開催させていただいた次第です。目標達成をさせていただいたというところでございます。

以上でございます。

○田中議長 西山さん、中浦さん、ありがとうございました。

西山さん、ちょっと今の情報誌、皆さんに回してもらえませんか。

回してもらってるうちに、ただいま区役所から26年度の振り返りと今年度の予算の説明がありました。予算、今から。済みません、失礼いたしました。先走りました。

○河合課長 総務課長の河合でございます。私のほうから予算の説明をさせていただきます。

お手元のほうに、今の資料の続きで資料5というのが1枚ございます。それと別に、区政だよりの4月号をお手元にお配りしておりますが、その下半分の部分に「平成27年度の主な予算をまとめました」という全体像を示させていただいておりますので、これをちょっとご覧いただきつつ、あともう一つ、細かい表でございますけれども、A3の表で、27年度の予算事業一覧、区長自由経費の全体像でございますが、表を付けさせていただいてお

ります。ちょっとこれは、またご覧いただくということで、ご説明につきましては、先ほどの資料5の、今日は子ども・教育部会でございますので、子育て支援の充実という項目でご説明をさせていただきます。座ってご説明させていただきます。

今もございましたように、26年度の振り返りを踏まえまして、地域社会全体で子育て中の保護者を支援し、安心して子育てができる仕組みを構築していく取り組みといたしまして、昨年度から「ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブ」を運用しておりますが、引き続き子育てに役立つ情報発信や子育て中の保護者と地域のつながりづくりを支援するというので、この仕組みの充実を図っていくこと。並びに、仕事と家庭の両立が図られるよう、引き続き保育所待機児童の解消に努めるというふうな方針に基づきまして、27年度の運営方針、並びに27年度の予算の編成をしております。

それで、27年度の子育て支援の充実というジャンルの基本方針といたしましては、資料5の一番上の四角囲みの中にごございますように、子育ての情報発信や相談機能を充実し、子どもたちが健やかに成長できるよう地域社会全体で子育て家庭を支援するというので、子育て支援の充実といたしまして、予算額で1,099万4,000円を計上したものでございます。その中で、重点的な取り組みといたしまして一番主になりますものが、先ほども説明がございましたが、子育てネットワーク構築支援強化事業ということで、511万4,000円を計上いたしております。これは、子育て世帯が安心して子育てができるよう、子育てサークルへの参加や子育てイベント、講座の開催などを通じまして、地域で子育て世帯を支援する仕組みを充実させるものでございます。

現在、核家族化というのが進みまして、地域とのつながりも希薄になってきている中で、子育て世帯同士のつながりづくりを支援するため、先ほど説明がございましたように、昨年より「ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブ」というものを立ち上げまして、そこで登録することによって、いろいろなつながりづくりの施策を展開してきておりますが、27年度はさらにそれを充実させまして、地元商店街との連携ですとか、大阪府で「まいど子どもカード」というものを作っておりますが、それとの連携もあわせまして、さらにそのカードの利便性を高めることによりまして、あわせて乳幼児健診等のさまざまな場を通して、登録者の増加を図っていきたいと考えております。また、企業等と連携して子育てイベントを充実するなど、この事業の実施によりまして、地域で安心して子育てができるよう支援していくものでございます。これによりまして予算額といたしましては、26年度は49万円の予算でございましたものを、27年度は大幅に増やしまして511万4,000円を計上しておるものでございます。

それから、その他の事業でございますが、今申しました事業以外の事業、これは従来か

ら継続して実施しておる事業でございますが、1つ目は発達障がい児支援事業ということで、発達障がいのある児童を支援するため、専門の心理相談員や発達障がいサポーター等を配置する事業でございます。それから、なにわっ子すくすくスタート事業。これは、妊婦及び乳幼児期の子育て家庭に支援・相談・情報提供を行う事業でございます。それから、3つ目に要保護児童対策地域協議会の運営ということでございますが、これは児童虐待の防止とか、早期発見、アフターケアなどの施策を総合的に調整する協議会の運営経費でございます。

以上、主に子育て施策の充実ということで、先ほどご説明いたしましたように、あわせて1,099万4,000円を計上しております。昨年度の予算額が638万円でございますので、昨年度に比しまして461万4,000円ほど増加させております。

ご説明は以上でございます。

○田中議長 どうもありがとうございました。

それでは、先ほど言いましたように、26年度の振り返りと今年度の予算の説明が終わりましたので、皆さんの質問とご意見をお聞きしたいと思います。どなたか、挙手にてお願いいたします。

清水委員さん、お願いします。

○清水委員 特に子育ての関係のほうでお話をしたいんですけども、たまたま、私のほうには孫が2人おりまして、2歳半と1歳弱の孫なんですけども。そんな中、この4月から2歳半の孫については、深江の保育所にお預かりいただくことになりましてお世話になっていると。ただ、5月生まれなんで、4月の段階ではゼロ歳児の扱いになる孫については預かってもらえるところがない状態で、娘については就職をしたんで4月から新しい職場に行く中で、共稼ぎというロケーションの中での現実ということでのお話。

批判でも何でもなく現実として、そういう家庭がまだまだあるという認識で、区役所さんで捉まえていただいたらいいのかなと思いますが、やっぱり、まだまだゼロ歳児の子どもを抱える、1歳児の子どもを抱えている、小さい子どもを抱えてる家庭としては、要は待機児童ゼロというのは、取り組んでいただいて非常に素晴らしいことやと思うんですけども、どっかにまだ、本来はこの子を預かってもらえれば、しっかりと働きに行けるんやけども、そうはいかない。もしくは、今お預かりいただいているのも、当初4時までのお預かりなんで、仕事を途中で抜けて帰って来て4時には受け取りに行かないかと。そうすると、普通の仕事をしていれば、なかなか勤務を完全にこなして子どものところへ戻るということができないというところのもどかしさがある状態での現状なんだなというのが、ちょっと感じまして。

今すぐそれをどう解消してくださいと言うことはないんですけども、うち以外にもそういう環境で子育てされてる若いお母さん、お父さんがいらっしゃるとするならば、その部分というのを今後に向けても予算化するものが必要なのか、もしくはいろんなものを施設として開拓していくものが必要なのかということを視野に入れていただいた中、やっぱり国の問題としての少子高齢化になってると思いますので、いろんな間口を広げて、その対応ができることをご計画いただいたら、さらに今やっていただいている以上の子育ての環境が整うと思いますので、改めてお願いということでお話しさせていただきたいと思います。済みません。

○西山課長 ありがとうございます。

○西野委員 済みません。西野と言いますけども、どうぞよろしくお願いいたします。今、清水委員言われましたけども、私もその部分でちょっと、よう似たこと言わせていただきますけども。よく似たというか、よく似ているというか、大変、清水委員には申し訳ないですけども、ちょっとお許しいただいて、またしゃべらせていただきます。

先ほどの部分の中で、現在、待機児童がゼロという部分の中で、ここには、表にはゼロとなってますねんけども、一緒の部分がありまして、夫婦で働きたい、共働きで働きたいという願望の多い家庭が多々、今、多いと思いますねんけども、なかなか預かってもらえる、預かっていただいてもいろんな条件とか地域性があるから、なかなか近いところへ行けない。本来なら働いてる方ですので、当然、お家の近いところに本来ならば行かなあかんという部分がございますねんけども、なかなか、東成区は区自体が小さいですので、移動時間でもまだ助かってる部分があると思います。

ですから、ここにも小規模保育園さん、東中本みらい保育園が26年度に開設なさったと思います。もう一個、私の記憶では、つみき保育園さんがアイアイルームを開設なさってると思います。間違うたらごめんなさい。もう一個、開設なさってると思いますねんけども、多分、そこも人数も小規模ですので、そんなに人数は預かってくれないという部分があると思います。

ですから、なかなか、私の言いたいのは、やっぱりその近くのお家に、お家から園、また保育所なり、そういうところに通わせていただいたら、なかなか利便性とか条件もいろいろあるかもしれませんし、また預かっていただく時間帯、今、清水委員さんも言われましたけども、なかなか遅くまで、本来なら仕事してるんですから、もう少し遅くまで預かってほしいと言うねんけども、なかなかそれがかなわない。だから、やっぱりその辺ももう少し時間帯とか、どこでもいいんじゃないかと、ある程度地域性も考えていただいて、そういう部分の中でまた取り組んでいただきましたらいいかと思いますので、大変申し訳ご

ざいせんけども、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○田中議長　両委員の皆さん、ありがとうございます。

ほかにも何かご意見ございませんか。

○増田委員　増田です。うちも孫の話になってしまうやね。今、東中本保育所にお世話になってるのが1人います。それと、もう1人はこの4月から東中本小学校に新入学したということで、いろいろ、まだまだ、親はおるんやけども、じいじ、ばあばが子育ての大きな役割を果たしてるちゅうなんが実態なんですけど。子どもが、娘も旦那も2人働いてますんで、なかなか仕事が時間どおり終わらんかったら迎えに行ってくれちゅうような話になるんですわ。

その中でもね、去年からも出てますけども、やはり待機児童ゼロになってるというのが、これ本当にどうなんかというのが、もう率直に疑問なんですわ。ここで書いていますと、4月1日時点で待機児童ゼロでしたと。それなら、保育所に申し込んだ方、仮に100人の申し込みがあって、100人がきっちりとそれぞれの保育所に措置できたんかどうか。そこんところをまず1点お聞きしたいんとあわせて、この辺にも書いてますけども、昨年の10月に東中本みらい保育園というのができましたと。そこに定員19名中19人の子どもさんが措置されてるということなんですけども、実際これ、うちらも家近いんですわ、ここ。東中本1丁目の、言えば小さいマンションの1階、1部屋ですね、そこにあるんです。

去年、秋ぐらいから始まったということで、確かにまだ秋時分やったら気候もええんで、小さい子どもを乳母車に乗せたり、ちょっと大きい子やったら手つないで歩いて近所の公園で遊ばしてると。そうやけどこれ、ええ気候のときばかりやないんですわ。冬は真冬になったら寒いし、これから夏になったら水遊びもできるような環境にはないんですわ、実際。今、うちがお世話になってる保育所、東中本ですけども、そこでやったら夏場いうたってプールありますわね、水遊びできるんですわ。ほんなら、こういうふうな、いわゆる新しい開設されたところ、マンションの1室使って子どもを、それこそ部屋の中で遊ばしてる、それだけ。運動も何もでけへんです。冬やったら、外へ出て行くにも寒いから出て行かれへん。これが、これからもこういうふうなんを、引き続き民間保育所園入所枠拡大を働きかけるちゅうふうに言うてはりますけども、これが今の新しい、東中本みらい保育園なんかを想定した上でこういうふうなんを書いてはるんとしたら、僕ちょっと問題やないかなと思うんです。

やっぱり、子どもがその保育所に通って友達と一緒に遊びます。そのためには何が必要なんかいうたら、やっぱり、それこそ園庭というのがありますわね。小学校やったらグラウ

ンドあるやろうし、運動場あるやろうし、保育所でもやっぱりある思うんですわ。そういう基準は本来、もともと作ってたもんやと思うんですけどね。そういうなんが緩和されて、こういうなんを認めていくちゅうことになったら、本末転倒やないかなと。何ていうか、待機児童ゼロにするために、これを広げていくんやいうのはちょっと違うんちゃうんかなと、僕は思います。だから、そこらでは行政はどういうふうを考えてはるのかちゅうことを、ちょっとお聞きしたいなということです。えらい長くなりましたけど。

○田中議長　　済みません。そしたら、西山さんのほうで。

○西山課長　　1点目でございますが、待機児童ゼロという表現をさせていただいてるのが、本当に実態とは違うだろうという感覚というのは、本当にお二人の委員の皆様のご意見も非常によくわかりますし、受けとめております。このゼロというのは、厚生労働省でいうところの定義上のゼロということでございますので、例えば、いつも説明する内容で済みません。A保育所とB保育所があったときに、確かにBが、もしかしたら離れているかもしれませんが、^{ほりゅうじ}「Bだったら今行けますよ」というときに、「いえ、Aを待たします」という場合には、もう待機児童と言わずに^{ほりゅうじ}保留児という言い方をしてます。そういう意味では、保育所を待っておられる方が現にいる、ゼロではないという状態ですけども、待機児童という定義の中ではゼロという表現になっております。ただ、少なくとも、いわゆる待機児童ゼロの状況だけでも当然継続しないといけませんし、ただ、制度上の決まった部分もちろんあるのはありますけれども、実態を踏まえて、まだまだ厳しい状況にあるということは我々も受けとめてるところです。

それと小規模事業の件ですけども、これも、もちろん認可保育所を建てていけば一番いいことでもありますし、まだまだ大阪市のほうは整備計画で場所の確保、あるいは事業者の公募をすることによって整備ができればということ、もちろん予算との兼ね合いもあります。それは、大阪市のほうで整備計画を立てて、人数の高いところから建てていくということで進めているところです。ただ、やはり仕事と子育ての両立という意味で、やはり待機児童、とにかく子どもを見ていただきたいという部分の中で、やはり子どももちろん、かといって^{きょうあい}狭隘なところではいけませんので、国のほうがちゃんと保育所と同じ一人当たり3.3平米とか、ちゃんと基準を設けた形で柔軟に、できるだけ身近なところで多くの方の入所枠を確保しようという取り組みとして、小規模保育事業というのがあります。

これについては、おっしゃるとおり、やはり保育所とは違う部分がありますが、小規模保育事業を設置するに当たっての条件として、近くの保育所、きちんと連携できる施設を見つけた上で事業を実施してもらおうということになっております。東中本みらい園の場合

は、北中本保育所が連携施設ということになっておりまして、例えば屋外の遊技場の利用に関する支援であるとか、その保育所のほうが、例えば行事への参加に関する支援ということで合同の行事に参加してもらうとか、あるいは合同保育をするとか、あるいは保育所の保育士さんに対する相談指導を行うとか、そういったことを保育所がバックアップするという、そういう仕組みにはなっております。

また、委員の皆様のおっしゃるご意見というのは、非常に切実に思っておりますので、踏まえさせていただきたいと思います。

以上です。

○田中議長 増田委員さん、ご理解していただきましたか。

○増田委員 なかなかできないね、これ。

○田中議長 先ほど、西野委員さんからちょっとご発言がありました、つみき保育園のアイアイルームというのはご存じなんですか。

○西山課長 アイアイルームも小規模保育というか、保育ママという事業ということで保育所が経営していただいています。

○田中議長 されてるんですね。

○西山課長 はい。

○西野委員 あそこは保育園の人がやってはるから。

○西山課長 そうです。保育園さんがやっておられるものです。

○田中議長 もう他にご意見ございませんか。時間が限られておりますので、ないようでしたら26年度の東成区の運営方針の振り返りについての議論を終了いたしまして、承認してまいりたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか、次の議題に入らせていただいて。

はい、先生。

○濱田副議長 ちょっと気になったのは、前回のときもこのゼロというのが出ましたね、同じことを増田さんが言われたと思うんですね。また同じことの繰り返しをやってるんですけど、これがゼロやからちょっとおかしいと、わずかでも。

○増田委員 ゼロが悪い言うとな違いますねん。

○濱田副議長 悪いんじゃないけども。

○増田委員 ゼロはめざさなあかんけどね。そのために。

○濱田副議長 だから、ゼロというのが気になるんじゃないかなと思うねん。

○増田委員 本来ね、きっちり措置されないかん部分が漏れとん違うかなと。

○濱田副議長 やっぱりマイナス状況ぐらいになるぐらいであれば、まだいいわけだし

ょうけど。ゼロというのは一つの点しかないわけですね。だから^{きんしょう}僅少とか、ちょっと僅少という言葉にしとけば、待機児童僅少であれば、少しぐらいはここで論点が出ないんじゃないかなと。前回も同じことを、私、聞いたような気がしたんでね。それで、返事も同じ返事なんです。だったら同じことの繰り返しやってるような気がしたんでね。

（「『保留児、何人』というような書き方をしたほうがいいのよね。」という声あり。）

○増田委員　本質的な解決にはつながってない。

○濱田副議長　だから、それをちょっと語句として訂正すればいいんじゃないかなと思うのよね。それでないと、また次、また委員変わったときに同じことばかり出てくと思うねんね。それが目立ってるんじゃないかなという気になるのと、それから、「ひがしなりっ子」という言葉と、ところでは「なにわっ子」という言葉と、この中で使い分けてるんやね。ひがしなりっ子というのはありますけど、なにわっ子いうのもやね。

その辺も、ちょっと使い分けせないかんかなと思ったりもするんですけど。子ども部会の審議のその他の事業のところ、なにわっ子すくすくスタートということで。それで、ひがしなりっ子すくすくやわね、ちょっとよう似たようなことで、何か使い分けしてるのかなと。その辺もきっちりと整理して、それ意味があるんなら、それでいいですけど。

ということと、子育て子育てと言われるんですが、私らそういう子育ての時期はもう過ぎまして、何とも無責任なことなんですけど、やっぱり子どもの教育というのは、親御さんもゼロ歳から働きに行かないかんという時代がちょっと悪いんでね。もうちょっと考えないと、子どもの本当の家庭での教育というのはできてないんじゃないかなと思うんですね。学校へ全部押しつける、あるいはいろいろな施設に押しつけるということが、果たしてそれでいいのかどうかというようなことも考えて、根底にそういうこと考えながら、皆さんもやっていかんと。ここで議論したって、なかなかそういう施設で本当の子どもの育てをしてくれてるかどうかいうことを、気になるところも時々テレビなどで出てますわな。施設入って叩かれたとか、子どもが虐待されてるとかいう。そういうようなこともあるので、もっと親御さんももう少し子どもの育てること、少子化で子どもが足らんから日本の子も、国もだんだん減ってくるということで、先は暗いというようなこともいろいろ言われるんですけど。子どもさんがふえることは大いに結構や、産めや増やせぐらいになって、増やしてくれたらいいぐらいなんですけど。それについても、やっぱり子どもを育てるという環境を、もう少し何か違った方面で考えてもらえたらなということで、そういうことも次をお願いしたいと。

それから説明聞いておりましたら、いろいろなカードがあるようですね。何やらのカードを渡して使う。あんまりカードようけがあると、ポケットに入らんようになるやろういう

てね。もう少し、何かもっといい方法はないのかなと。いい方法いうたら、みんなまた、このテレビのじゃないけど、電話のあれ持って来てこれねってやり出すんですよね。これまた、いかなのやと思うんですけど。ともかくカード、カードと出てくると、いろいろ違ったカードが出てきたら、私はほとんどカード使わんといっても二、三十枚ありますから、私のポケットの中にも。だから、カード、カードいうのもちょっと、何でもカード作ったらそれでいいんじゃないんで。その証^{あかし}をするのには何がいいのかなと思うんですけど。そういうことが、今、議論されてる中で気がついたことであって、意見かどうかわかりませんが、もう閉めるということで、ちょっと。

○田中議長　次、考えておいてください。なにわっ子とひがしなりっ子。

○西山課長　これは、なにわっ子とひがしなりっ子だけは、ちょっと経緯がありますので。「なにわっ子すくすくスタート」は大阪市の事業として始まりまして、24区で取り組んでいるということなので、なにわっ子ということにして、この「ひがしなりっ子　すくすく・つながるクラブ」は、東成区オリジナルの取り組みということです。今後、また言いながらも区でオリジナルに、名前はわかりやすくということで。

○濱田副議長　皆、子どもは同じ子でしょう。対象の子どもは同じ子やな。なにわっ子、ひがしなりっ子というのは、ちょっとおかしいようなところあるんね。

○西野委員　まあ、字のごとくで。区と市とでなっとるから。

○濱田副議長　自分勝手にいうたって、やっぱり市からあれやったらね。もうひがしなりっ子って言わんでもいいのかなと思ったり。それは考えておいてください。

○西山課長　はい、わかりました。

○田中議長　それでは、先ほど区役所のほうから提案がありました、この部会の1年間の検討するテーマについての意見交換をして欲しいということで、忌憚^{きたん}のないご意見をいただきまして、まとめたいと思いますが、発言お願いいたします。

このテーマというのは、この部会、子ども・教育部会だけで取り組むテーマということですね。

○西山課長　はい。

○田中議長　何か、こういうことをして欲しいという委員さんがございませんか。

○西山課長　例えば、皆さんのご議論のちょっと土台にと思ひまして、先ほど保健福祉部会があったんですけども、1年間のテーマとして、まず、健康寿命を延伸するための健康づくりということで設定をされております。

例えば区役所のほうで、先ほどの「すくすく・つながるクラブ」とカードのことにもつながるんですけど、やはり今、子育て家庭が、例えば核家族化であったり、地域のつなが

りが薄くなってるという中で、子育てが孤立化しやすいという状況にある中で、子育て家庭と地域がつながりを持って、子育て家庭が安心して暮らせる地域づくりというのは非常に重要なことだと思っております、このつながるクラブもその仕組みですけれども、地域でも子育てサークルがありまして、そういう地域での子育て支援の機会というものもあります。その地域と子育て家庭をつなぐという意味では、実はいろんなイベントをしても、来られる方は実は心配なくて、本当は見守りが必要な方はなかなかそういう場では来れないというところもございますので、そういうつながりをどう作っていくのかというのは、非常に難しい問題かなと思っておりますし、地域のお力も非常に必要なことだと思っております。

例えば、もう一つ目線を変えると、じゃあできるだけ早くからつながっていくようなことを考えるという意味では、例えば妊産婦、妊婦の時期から地域とつながりができないとか。子育てサークルの中でも就学前の子どもさんを対象にしておられるところが多いんですけれども、例えば、妊婦さんの方も参加できますよというような取り組みをしていたらいいので、そういった場で妊婦同士、あるいは妊婦さんとちょっと先輩の保護者とつながれるという機会にもなりますし、そういうような仕組みをどうしていくとか。例えば、一つの例でございますけれども、何かそういう、子育てに関してはそういったようなことのテーマであったりとか、ちょっと議論の参考にといいまして。あと教育のテーマでも、もちろんいいかと思いますが。

○中浦課長　教育のほうでは、今、学校、子どもの体力が、特に大阪は全国平均よりも低下しておるということもございまして、各学校においても、そういった体力づくりというのを取り組んでいけないといけないというようなことも言われておるところでございます。

区内を見渡しますと、いろんな団体さんでいろんなイベント、行事なんかもやられてるというところもありますし、そういったところも活用できるものを活用して、健やかに育っていく、子どもたちを育てていくというような観点で、そういったどういった取り組みからできるのかというようなこともテーマの一つとしては考えられるのかなということで、ちょっと参考にお話しさせていただきます。

○田中議長　今、お二人の区役所の方からテーマはこんな感じがですかと、健康づくり、体力づくり、子育て家庭の支援というふうにおっしゃっていただきましたが、何かほかにご意見ございませんか。

これは、テーマは一つで1年間通すわけですか。

○木口副区長　余りたくさんになりますと、なかなか難しいと思いますので、1つない

し2つぐらいがいいかなと思ってるんですが、3つ4つになっても結構かと思います。

○田中議長 委員の皆さんのご意見を聞いててもあれやけど、多数決でいくわけですか。

○木口副区長 できれば、皆さん合意していただいたら、一番理想かなと思います。

○森本区長 できれば、せっかく、去年もそうなんですけども、部会は違いますけども、保健福祉部会で地域で認知症の方の勉強会をやっているというようなことを、意見を言われてまして、それを東成区として予算化しようかなと思っていました。ちょうど局が認知症に関する予算化をしました。あるいは在宅の医療とか介護の問題が少し問題になってるんじゃないかということ言われてまして、それを少し取り入れさせていただいて、先ほど言いましたように少し予算を集めてきまして、予算要求をしますので、できましたら皆さんが何か、余り狭くするとなかなか議論が浮かばないので、何かテーマで研究したいというのがあればご議論いただいて、最終、例えば来年度の施策とか予算要求に活かしていただければ、皆さんのお声も届くということで、こちらのほうも何て言いますか、意欲が出てくることもありますので、どうぞよろしく願いいたします。

○田中議長 濱田先生、何か決めていただきたいと思います。

○濱田副議長 テーマですか。

○西野委員 1個、言うてよろしいか。濱田先生、ちょっと先に言わせていただきます。

いろいろと総合的なこと、さっきから両課長さん言われてましてんけども、もうあんまり時間ないから長いことしゃべってしまいますと、あれでございますので。

全体の、この1年間で取り組んでいく中でやっていくと思えば、私は子育てネットワークと青少年の健全育成。もう時間がございませんので、これで終わらせていただきます。「子育てネットワークと青少年の健全育成」、ちょっとそれはそういう意味で言わせていただきました。先生、申し訳ございません。

○濱田副議長 もう立場上、皆いろいろと、青少年ということで出てたね。

体力づくりをやっぱり入れようということであれば、「子育てと体力づくり」ということで、その辺を漠然とでしようけれど、体力づくりというのは、もう市としても考えられておると思うので、それを一つのテーマにつなげて、ひがしなりっ子だけのことになるかもわかりませんが、子育てと体力づくりということであれば、今、1時間ほどしゃべった中には言ってることの、来年度についてもまとまるんじゃないかなと思いますけど。そこは一つ、ここでは本来決めるところじゃないと。参考にといいことですので、参考に申し上げておきます。

以上です。

○田中議長 ありがとうございます。

とりあえず、今回の部会ではテーマといたしまして、「子育てネットワークと青少年健全育成、並びに体力づくり」を考えようということにいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○松井委員 済みません、ちょっとよろしいですか。時間ないので黙っとこうと思ったんですけどね。

皆さん、行政行政言いはるけれども、せめてもうちょっと親、家族の出番をもっと表に出すいう気はございませんか。子どもを育てるのも親ですわ、はっきり言うて。それに何でも、こう聞いてたら行政にやってくれと。はっきり言うて、おじいちゃんや、もっと孫のことを言うて。自分の孫のことを、行政に。

○増田委員 そうや、頑張ってまっせ。そうやけど、本来行政がせないかんところも、ようけおまんねや。

○松井委員 あるかわからんけど、親がもっとせなあかんところがもっとあると思う。子どもの体力一つにしたって、親がもっとやるべきやと思う。そやから、目標立てるんやったら、一遍、東成はもっと親が前へ出ましようよと。自分の子どもですから、はっきり言うて。行政とか他人に、おんぶに抱っこやなしに。

○増田委員 いや、それをね、おんぶに抱っこやちゅうのは違いまっせ。

○松井委員 それで、小さい子どもが、はっきり言うて、いつまでも抱っこしたる言うても離れていきます。だから、できたらゼロ歳児、1歳、できたら親が抱きしめて育ててほしい。もう、ある年になったら親から巣立って行くんです。

だから、できたら東成はもっと親が、家族が前端的に子育てに出て行くいう形の、何かそういうスローガン、何か皆あったら行政の出番や、やれとか、そういうのやなしに。やっぱり、どっかまでは親が責任を持たなあかんところがあると思うんですよ。済みません。

○田中議長 とりあえず、もう時間ですので、次回の部会でまた意見交換をしたいと思えます。

それでは、区役所のほうにこの後の進行のほうをお返しいたしますので、よろしくお願いいたします。

○笹部課長 議長をはじめ委員の皆様方、活発なご議論をいただきまして、まことにありがとうございました。

なお、本日皆様方からいただきましたご意見につきましては、今年度の区政運営や来年度の運営方針の作成に当たり、参考とさせていただきたいと思えます。また、来週の6月23日には区政会議本会議の開催を予定しておりますので、その場で各部会からの報告を行うというような形を予定しております。ぜひとも、ご出席方よろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成27年度第1回目の子ども・教育部会を終了させていただきます。
長時間にわたりましたが、ありがとうございました。

―― 了 ――

6 配付資料 添付のとおり